

宇都宮・県央版

広がれ「大谷の歌」

宇都宮の城山中



「愛があれば」を音楽の時間に歌う城山中生徒

地元音楽祭のテーマソング

授業に導入、歌い継ぐ

【宇都宮】大谷の歌を響かせよう。城山中(三百六十七人)は、大谷石の里音楽祭のテーマソング「愛があれば」を本年度から音楽の授業に取り入れている。二月に発表されたばかりで、「地元の歌を地元の中学生の声で広めよう」と、熱唱している。

やすい」とし、言葉を大導した。切に歌うように指導。男また歌のテストとし、子生徒は麦声期を迎え、真剣に取り組む仕掛けを高音に不安があったが、つくった。口を大きく開けるなど指三年生の菊地弘樹君は

「テンポのいい曲で歌いやすい」と話し、同じく三年生の平右智美さんも「優しい感じの曲。夢に向かって頑張ろうという気持ちになる」と好意的に受け止めている。十一月には、校内合唱コンクールでの全校合唱も検討しており、歌の普及に同校が果たす役割は大きい。

「愛があれば」は、県教育会館大ホールで開かれた大谷石の里音楽祭2006のテーマソング。大谷地区の自然や特産品・大谷石などを盛り込み、同地区住民にとって親しみやすく覚えやすい曲だ。音楽祭終了後は、披露される機会がほとんどなかった。「いい歌だが、地元の人が歌い継いでいかなないと、忘れ去られてしまう」と感じた富田友子副校長が、春になって音楽担当の菊地悦子教諭と相談し、音楽の授業に取り入れることにした。菊地教諭は、「地元の歌なので、情景が浮かび